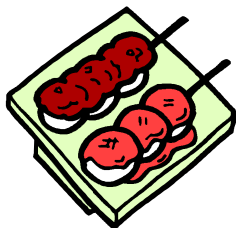


北里学級だより

# たんぽぽ

NO.3 2012.6.14.



## 「蓬だんごづくり」で学んだこと



北里学級では、入院中の子どもたちに目標のある生活を維持させるために、年間を通じて多くの行事を実施しています。

先日おこなわれた「蓬だんごづくり」もそのひとつ。仲間と協力して作った蓬だんごを食べたり、お世話になっている人へ届けたりすることが、入院生活に潤いをもたらします。

### 子どもと一緒に計画を立てる

今年の蓬だんごづくりは、すべて教師の手で準備するのではなく、計画作りから子どもたちを参加させました。だんごのレシピを書いたり、出来上がっただんごを誰に食べてもらうか考えながら当日を迎えました。

病院内の教室で、多くの人の口に入るものを作るのですから衛生面には細心の注意を払う必要があります。テーブルや器具の殺菌消毒は教師の手でおこないました。

当日は、エプロンを身につけ、髪の毛を覆う帽子をかぶり、マスクとビニル手袋を装着して、いよいよ蓬だんごの生地を作ります。

「水はどれくらい入れるのかな。」

「もっと少しずつだよ。」

「耳たぶの固さって？」

「手袋する前に耳にさわっておけばよかった…。」

迷ったり、失敗を繰り返しながら少しずつだんごが出来上がってきます。

「ビニル手袋してると、粉がくっついちゃうよ。」

「いいやり方ないかな。」

そんなつぶやきが聞こえます。

## 失敗することも大切

ひとつひとつ、心を込めて丸めただんごは、隣の部屋で先生が茹でてくれました。出来上がっただんごは、ひとつ一つ大きさや形が違いますが、子どもたちは、どうすれば同じ大きさになるのか工夫はしたのです。

そして、箸を使って苦労しながらパックに詰めていきます。なかなかうまくいきません。どうしても箸にだんごがくっついてしまい、上手にパックに入らないのです。それでも何とか餡やきな粉を乗せて完成。

## 喜んでくれる人がいる

完成した蓬だんごはナースステーションだけでなく、院長室、管理部、看護部などにも届けに行き、とても喜んで受け取ってくれました。入院中の子どもたちも、誰かに喜んでもらったことが大きな励みになりました。

## 教師のねらい

院内学級は、入院中の子どもたちに学校としての教育をおこなう場です。

学校には、先生だけでなく大勢の仲間がいて力を合わせて勉強や行事などに取り組んでいます。仲間とのコミュニケーションが希薄になりがちな入院生活ですが、院内学級は「力を合わせることのすばらしさ」を忘れさせないという大きな役割を担っていると考えています。

蓬だんご作りで子どもたちが学んだことは次の通りです。

- 計画やレシピ作りから参加したので意欲的に取り組むことができた
- 仲間と協力して作ることの楽しさを体験した
- 失敗してもいいので、自分たちで考え工夫することが大切だと気づいた
- 届けた先で喜んでくれたことを通して、誰かのためにがんばることの喜びを学んだ。
- 準備や後片付けの大切さがわかった

|     |          |  |
|-----|----------|--|
| 小学部 | 国語<br>算数 |  |
|     | 総合       |  |
| 中学部 | 五教科を中心に  | 学校では、修学旅行や校外学習などの行事も一段落し、期末試験に向けての取り組みが始まっています。在籍する学校から試験範囲表を送ってもらい、授業を受けられないハンディを拡張できるように積極的に支援していきます。<br>一人ひとりに合った計画を作成し、仲間と助け合いながら学習をすすめます。 |